報道関係者各位

News Release
資料提供：2024年3月15日（金）
発信元：六甲山観光株式会社

「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」
第一弾出展アーティスト23組を発表！
～3月15日（金）からお得な早割パスポートを販売～

六甲山観光株式会社（本社：神戸市灘区　社長：寺西公彦）は、2024年8月24日（土）から11月24日（日）まで神戸・六甲山上を舞台に現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」を開催します。

この度、**第一弾招待アーティスト23組が決定**しましたのでお知らせします。今年も出展アーティストを充実させており、公募アーティストを含め約60組が出展予定です。

また本芸術祭開催にあたり、**3月15日（金）～5月31日（金）の期間、通常価格よりも大変お得な「ナイトパス付鑑賞パスポート」「鑑賞パスポート」の早割価格での販売を再開します。さらに、「ひかりの森～夜の芸術散歩～」を鑑賞できる「ナイトパス」もWEBにて早割価格で販売を開始します。**

つきましては、「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」開催情報を貴社媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond

《第一弾　招待アーティスト》※５０音順

いくらまりえ、ウ・ヒョンミン、小畑亮平、開発好明、金氏徹平、川俣正、北川太郎、城戸みゆき、佐藤圭一、さわひらき、鈴木将弘、高田治、髙橋匡太、髙橋瑠璃、生田目礼一、春田美咲、布施琳太郎、船井美佐、松田修、三梨伸、宮永愛子、葭村太一、WA!moto.“Motoka Watanabe”（２０２４年３月１５日現在）

※公募アーティストは5月6日（月・祝）まで募集しています。6月下旬に決定します。詳しくは（https://www.rokkomeetsart.jp/）をご確認ください。各アーティストのプロフィールは別紙をご確認ください。

◆「早割パスポート」の販売について

【販売券種】 **ナイトパス付鑑賞パスポート**…有料会場＋「ひかりの森～夜の芸術散歩～」会場への入場
鑑賞パスポート……有料会場への入場
ナイトパス……「ひかりの森～夜の芸術散歩～」会場への入場
※当芸術祭会期限定で「シダレミュージアム」に割引入場できるセット券も販売します。
詳しくは次項の開催概要をご覧ください。

【販売期間】 **２０２４年３月１５日（金）～５月３１日（金）**

【販売場所】 e+、チケットぴあ、asoview!、ローソンチケット、ArtSticker、HHcrosstowns、LINKTIVITY

《神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond 開催概要》

【 会　期 】 2024年8月24日（土）～11月24日（日）

【 会　場 】ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園、トレイルエリア、風の教会エリア、六甲ガーデンテラスエリア、六甲ケーブル（六甲ケーブル下駅・山上駅・天覧台）、六甲有馬ロープウェー六甲山頂駅、兵庫県立六甲山ビジターセンター（記念碑台）、六甲山サイレンスリゾート（旧六甲山ホテル）

※ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園、トレイルエリア（一部会場）、風の教会エリアは有料会場

関連イベント[ひかりの森～夜の芸術散歩～]

【 会　期 】 2024年9月21日（土）～11月24日（日）の土日祝の夜間

【 会　場 】ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園

【 料　金 】 大人＝中学生以上、小人＝4 歳～小学生　3 歳以下無料　　詳しくは HP へ

種類	販売期間	ナイトパス付鑑賞パスポート		鑑賞パスポート		ナイトパス	
		大人	小人	大人	小人	大人	小人
早割	3 月 15 日～5 月 31 日	3,500 円	1,400 円	2,500 円	900 円	1,600 円	700 円
前売	6 月 1 日～8 月 23 日	3,800 円	1,500 円	2,800 円	1,000 円	1,800 円	800 円
Web 割	8 月 24 日～11 月 24 日	3,900 円	1,600 円	2,900 円	1,100 円	1,850 円	900 円
当日	8 月 24 日～11 月 24 日	4,000 円	1,700 円	3,000 円	1,200 円	1,900 円	950 円
対象会場	神戸六甲ミーツ・アート	○		○		—	
	ひかりの森～夜の芸術散歩～	○		—		○	

※上記に大人＋800 円、小人＋400 円で「シダレミュージアム」に割引入場できるセット券も販売。

主 催：六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社　　総合ディレクター：　高見澤清隆

■2024年の取り組みの4つの柱

神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond では、昨年に引き続き以下の取り組みに注力します。

出展アーティストの充実

過去最多となる招待・公募を合わせた60組以上のアーティストの参加を予定しています。国内外から幅広い視点で活動しているアーティストの作品をご紹介します。また、公募作品の募集条件を向上し、より優れた作品を募ります。

芸術祭の象徴となる拠点エリアの充実

2023年に ROKKO 森の音ミュージアムに新設した野外アートゾーンをさらに拡充し、会期外でも四季を通じてアート作品を鑑賞できる場を充実させます。

トレイルエリアの増設

山中の散策路沿いに作品を展示するトレイルエリアをさらに広げ、アート鑑賞の楽しさとともに六甲山の新たな魅力にも出会えます。

こどもたちがアートに触れ合える機会の創出

ワークショップ等を通じて自然の中で子どもたちが現代アートに触れられる機会を増やし、次世代の文化芸術の担い手や支え手を育てていきます。

◆資料に関するお問い合わせ先

六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond 事務局　広報担当：岡本、森下

TEL：078-891-0048（平日 9:00～18:00）広報用携帯電話：090-7104-3645　E-mail：press@rokkosan.com

出展決定　招待アーティスト

いくらまりえ

1986 年　神奈川県生まれ、東京都在住
2010 年　多摩美術大学絵画学科油画専攻卒

実家は幼稚園でした。記憶にある最初の作品は、その砂場で作った、お団子山でした。楽しくて楽しくて、無我夢中で作って、気づけば周りに誰もいなくなっても生ききっていた姿に今一番憧れています。自分はまだあの砂場に居て、今は無我夢中に絵を描きながら誰か遊びに来てくれるのを待っているのかもしれません。

《SOAK》2022 年、文房堂ギャラリー

ウ・ヒョンミン

1991 年　大韓民国出身・在住

ウ・ヒョンミンは幼い頃から K-POP の世界で活躍してきた経緯を持つ。国内外で K-POP アーティストとして活躍しながらも、虚像と実像の間で自分の内面に向き合い、自身の人生の純粋な光を取り戻そうと絵を描き始めた。失いかけていた自らの意志、自由、希望、愛などの感情と向き合いながら、新しい人生、そして本来の自分を作っていくプロセスとして様々な作品に取り組んでいる。ウ・ヒョンミンの作品は内面から鳴り響くシグナルの記録であり、名前が分からない誰かに書く文のない手紙のようである。

《A Letter with No World》2023 年

小畑亮平（おばたりょうへい）

1980 年　神戸市出身・大阪府在住
2019 年　京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術環境専攻修士課程　修了

他者の行為の痕跡が残された物品を収集し、それらの行為に宿る気配を探り出そうと試みています。それらの物品には、いつか誰かが確かにそこに存在し、そして何かしらの動作を行った瞬間があったのだ、という「確かさ」が残されています。無意識に作られたそれらの形には、そのそれぞれに誰にも意図的に真似をすることができない唯一無二の造形が残されており、人が無意識のうちに作り上げている創造性が宿っています。

《Their Breathing》2023 年

開発好明（かいはつよしあき）

1966 年　山梨県生まれ、山梨県在住
1991 年　多摩美術大学　美術学部　絵画科油画専攻卒業
1993 年　多摩美術大学　大学院　美術研究科修士課程修了

観客参加型の美術作品を中心に、2004 年にヴェネチア・ビエンナーレ第 9 回国際建築展、2006 年に妻有トリエンナーレ「越後妻有大地の芸術祭 2006」に出品。2016 年に市原湖畔美術館にて「中2病展」を開催。また国外では、ベルリンのニューナショナルギャラリーにて「berlin-Tokyo/Tokyo-Berlin」などに参加し国内外で発表を行っている。2011 年以降デイリリーアートサーカスを企画し震災によって被害を受けた学校や仮設住宅に訪問して展示やワークショップを行った。
2024 年 8 月 3 日－11 月 10 日まで東京都現代美術館にて個展開催が予定されている。

《スペースホワイトカフェ》2017 年

かねうじてっぺい
金氏徹平

1978 年　京都府生まれ、京都市在住
2003 年　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了

日常の事物を収集し、コラージュ的手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探求。国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数手掛ける。自身の映像作品を舞台化した「tower（THEATER)」（ロームシアター京都サウスホール、Kyoto Experiment 2017）では演出も担当。

《白地図》2011 年、国立国際美術館
撮影：福永一夫

かわまたただし
川俣正

1953 年　北海道生まれ、フランス、パリ在住
1984 年　東京芸術大学大学院博士課程満期退学

第 40 回ヴェネツィア・ビエンナーレ（1982 年）の参加アーティストに選ばれ、その後もドクメンタ8（1987 年）、ドクメンタ9（1992 年）、第 3 回ミュンスター彫刻プロジェクト（1997 年）などの国際展にて高い評価を獲得し、1998 年に東京芸術大学先端芸術表現科の設立に主任教授として参画した。2005 年にはアーティストでありながら横浜トリエンナーレの総合ディレクターとして大規模な国際展の企画を手がけた。
2006 年以降、活動の拠点をフランス・パリに移し、パリ国立高等芸術学院にて教授職に就きながら、アーティストとして欧州を拠点に精力的な活動を展開する。 彼の仕事が関わっていく分野は、建築や都市計画、歴史学や社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまで及ぶ。現在、フランス・パリを拠点に欧州・アジア地域で活動を展開している。

《カワマタ・ブリュッケ》2022 年、スイス

きたがわたろう
北川太郎

1976 年　兵庫県生まれ、京都府在住
2007 年　愛知県立芸術大学 大学院 美術研究科修了

文化庁新進芸術家在外研修により南米に派遣され、2010 年にはペルー共和国の首都リマにある Museo Pedro de OSMA にて個展等数々の実績と多彩な受賞歴を持ち、存在しないものの魅力を引き出す事に着目したシリーズ「静けさ」、時間の可視化を試みたシリーズ「時空ピラミッド」、触覚性に着目したシリーズ「手の考える世界」等、現代への警鐘となる展覧会へ多く参加し、石の内包する魅力をさまざまなアプローチで展開している。

《手の考える世界》2014-2022、
DOMANI 明日展・国立新美術館（撮影：山本糾）

きど
城戸みゆき

1972 年　広島市出身、京都市在住
1995 年　女子美術大学絵画科洋画専攻卒業

日々の生活から派生するものはあまりに膨大なため、その全てについて考えることは誰にもできません。けれど、普段切り捨てられているもののある一点に注目して拾い上げ、それを掘り下げて行くと、私たちは日常の水面下に眠る風景の広大さを知ることができます。私たちはいつも何を見て、何を忘れているのでしょうか？　目の前の世界を少し変化させることができて、その素材に生活の中で再び出会った人たちが少し笑ってくれるような作品を作りたいと考えています。

《アイスランドの森》2013 年
ガルドゥール(アイスランド)Fresh winds Art Festival

さとうけいいち
佐藤圭一

1966 年　東京都生まれ、東京都在住
1994 年　東京藝術大学 大学院 美術研究科彫刻専攻修了

アイデアはいつも情景として頭の中に現れます。その情景を造形上の問題を解決しながら、設定に合わせ忠実に再現することが私の制作です。私にとって作品とは自己表現というよりも、「勝手にそこにいるモノ」という感覚を強く持っています。制作したのは確かに私なのですが、その事とは別に、特に展覧会などでは強くそう感じてしまいます。そして、それらの「いる場所」では私の意図するしないに関わらず活き活きとした時間が流れてゆき、私はそれをいつも憧れのような気分で眺めてしまいます。今回の作品も六甲山の開放的な空気の中で贅沢な時間を過ごしてくれればと願っています。

《おねすと》2021 年
六甲ミーツ・アート芸術散歩 2021

さわひらき

1977 年　石川県出身、ロンドン／金沢市在住
2003 年　ロンドン大学 スレード校美術学部 彫刻科 修士課程修了

映像・立体・平面作品などを組み合わせ、それらにより構成された空間/時間インスタレーションを展開し、独自の世界観を表現している。自らの記憶と他者の記憶の領域を行き来する反復運動の中から、特定のモチーフに光を当て、そこにある種の普遍性をはらむ儚さや懐かしさが立ち上がってくる作品群を展開している。

《absent》2018 年
六甲ミーツ・アート芸術散歩 2018

すずきまさひろ
鈴木将弘

1985 年　東京都出身、フランス在住
2015 年　エクサン=プロバンス高等芸術学校 ファインアート修士過程修了

「風土と身体の動き」との関係性を問いながら、各地でサイトスペシフィックな作品を制作。風土性を持つ人間の創作活動を自然現象の一つとして捉え、「アントロポイエシス・メゾロジック（Anthropoïésis mésologique）」と称し、直感と論理のフィードバックで思考を巡らす。その試行錯誤する過程自体を作品の本質と見なし、彫刻、文章、パフォーマンス映像はその痕跡であり、それぞれが補完し合うことで一つの作品が成り立つ。

《Mise à feu, mis en monde : la tour en argile grise
（焼成、世界に投じる－ 灰色の粘土の塔）》2021 年

たかたおさむ
高田 治

1985 年　兵庫県出身、同地在住
2009 年　宝塚造形芸術大学大学院修了

特撮ヒーローやアニメのフィギュアが幼い頃から好きで、その事が現在の人体像の制作の根本にあるのかもしれない。
現在の制作における自分のフォーカスは、人の肉体、骨の構造、筋肉の動きにあり、人形ではなく、人間を表現したいと思っている。
そして自分が表現している人体像は、その像が男性であれ、女性であれ、全て自分自身だ。
言うならば、それらは僕の中では“OSAMU MAN”であり“OSAMU WOMAN”である。

左《25 歳のおさむ》2010 年、第 84 回国展
右《33 歳のおさむ》2018 年、第 92 回国展

たかはしきょうた
髙橋匡太

1970 年　京都府生まれ、京都府在住
1995 年　京都市立芸術大学 大学院 美術研究科彫刻専攻修了

光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。京都市京セラ美術館、東京駅 100 周年記念ライトアップ、十和田市現代美術館など建築物へのライティングプロジェクトは、ダイナミックで造形的な光の作品を創り出す。多くの人とともに作る「夢のたね」、「ひかりの実」、「ひかりの花畑」など大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。

《雲の故郷へ》2023 年馬祖民俗文物館、台湾
撮影：村上美都

たかはしるり
髙橋瑠璃

1998 年　東京都出身・在住
2023 年　東京藝術大学 大学院 美術研究科彫刻専攻修了

生活の中で面白いと思った人間や人間の行動をモチーフに石の彫刻を作っています。人は知らない人と出会いながら色々な事を考えながら生活をしていて、出会った知らない人達も自分と同じように色々な事を考えていると思います。作品を見た人の、今までの思考や記憶によって、私とは違う何かを思い出してもらえる作品になればいいと思います。
滞在制作では現地に行ってから考えてその場所だからできる制作をしたいと考えています。

《ばれてしまった 1 人の時間》2023 年

なまためれいいち
生田目礼一

1980 年　宮城県出身、埼玉県在住
2000 年　仙台中央理容美容専門学校

あらゆる物がガラス化した世界を描いたオリジナル小説をベースに、その情景をガラスのインスタレーション作品で表現。
環境問題や多様性をテーマに野外音楽フェスや商業施設など、屋内外を問わない展示スタイルで活動を展開。
光を放つ極彩色の植物やガラス化した多種多様な生物の物語を描く事で、環境破壊にも屈せず進化し続ける奇妙で不思議な生命の姿をファンタジックに表現。ガラス化した世界の体現を試みる。

《明日の記憶》2017 年 SONICART in SUMMER SONIC2017 撮影：馬場繁

はるたみさき
春田美咲

1991 年　千葉県出身・在住
2015 年　多摩美術大学絵画学部油画専攻卒業

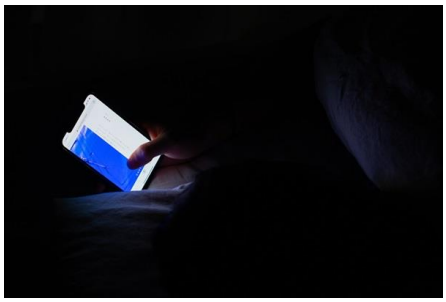
その時にしか感じえないこと、その場でしか感じえない風景をもとに作品を制作しております。
主に包装紙を扱った作品を制作しておりますが、作品のコンセプトに合わせて色々な素材を扱って表現します。
私が見て感じ取ったことを、見る人が絵画空間を通して体感できるような作品を目指しています。

《百花繚乱》2022 年　写真提供：DamaDamTal

布施琳太郎（ふせりんたろう）

1994 年　東京都出身・在住
2019 年　東京藝術大学 大学院映像研究科（メディア映像専攻）修了

スマートフォンの発売以降の都市における「孤独」や「二人であること」の回復に向けて、詩や批評の執筆、映像作品やウェブサイト、絵画などの制作、講義の自主企画、展覧会のキュレーションなどを実践。
主な活動として個展「新しい死体」（2022／PARCO MUSEUM TOKYO）、廃印刷工場におけるキュレーション展「惑星ザムザ」（2022／小高製本工業跡地）、600 ページのハンドアウトを片手に造船所跡地を巡る展覧会「沈黙のカテゴリー」（2021／名村造船所跡地〔クリエイティブセンター大阪〕）、ひとりずつしかアクセスできないウェブページを会場とした展覧会「隔離式濃厚接触室」（2020）など。



《隔離式濃厚接触室》2020 年

船井美佐（ふないみさ）

1974 年　京都府生まれ、東京在住
2001 年　筑波大学 大学院 芸術研究科修了

船井美佐は「楽園」と「境界」をテーマに、絵画によるインスタレーションを制作しています。
線描による即興のドローイングや、シェイプドキャンバスと鏡によって空間を構成するシリーズがあり、見るものがイメージの境界に入り込むような空間を作り出します。二次元と三次元、想像と現実、過去と未来を交差させることで、みえないものを形に表し、イマジネーションの力で新しい未来を形作ります。

《Utopia/Dystopia》2020 年　撮影：木奥恵三

松田 修（まつだおさむ）

1979 年　兵庫県出身、東京都在住
2009 年　東京芸術大学 大学院 美術研究科修了

松田修は映像や立体、ドローイングなどさまざまなメディアを用いた表現で、社会に潜む問題や現象、風俗をモチーフにして「生」や「死」といった普遍的なテーマに取り組んでいる。ひきこもりやニートといった、ときには世間から否定的な眼差しを向けられる存在や、繰り返し再生されるゲーム内での戦いや死、そのようなヴァーチャルな世界での生命観なども松田の作品の重要な要素となっている。近年の活動では、コロナ禍における貧困層の現実など、自身の生い立ちや経験をふまえた、当事者意識に基づく作品を多数発表。その一環として、初の単著となる「尼人」を出版した。

《奴隷の椅子》2020 年、こんなはずじゃない

三梨 伸（みつなしのぶお）

1960 年　神奈川県生まれ
1987 年　武蔵野美術大学 大学院 造形研究科

人間の手と自然から作られたものを素材として組み合わせ、
享楽の世界にのめり込みながら空間を制作しております。

サンパウロ市営市場、2022

宮永愛子（みやながあいこ）

1974 年　京都府京都市出身、同地在住
2008 年　東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了

日用品をナフタリンでかたどったオブジェや、塩や葉脈、陶器の貫入音を使ったインスタレーションなど、気配の痕跡を用いて時間を視覚化し、「変わりながらも存在し続ける世界」を表現した作品で注目を集める。
主な近年の展覧会に、個展「宮永愛子　詩を包む」（富山市ガラス美術館、2023）、個展「宮永愛子−海をよむ」（ZENBI−鍵善良房−KAGIZEN ART MUSEUM、京都、2023）、「ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会」（森美術館、東京、2023）等。第 70 回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞（2020）。

《夜に降る景色-時計-》2010 年撮影：宮島径
(c)MIYANAGA Aiko, Courtesy of Mizuma Art Gallery

葭村太一（よしむらたいち）

1986 年　兵庫県出身、大阪府在住
2009 年　大阪芸術大学芸術学部デザイン学科卒業

人間の意識、痕跡や記憶、それらを想起させるような作品を手掛ける。近年は街中に残された落書きを木彫の彫刻へと立体的に再構築するシリーズを展開している。場所の持つ記憶を彫刻に落とし込み、その他メディアを組み合わせながら作品を制作する。主な展示として、「BankART Life7 UrbanNesting：再び都市に棲む」BankART Station（2024 年/神奈川）、「まちのことづて」A-LAB（2023 年/兵庫）、「Frieze seoul 2023 −フォーカスアジア− 」coex（2023 年/ソウル）、個展「34°　40’33”N135°　29’55”E」Marco gallery（2022 年　/　大阪）など。

《34°　37’21”N　135°　28’29”E》2023 年
撮影：増田好郎

WA!moto. “Motoka Watanabe”

1981 年　北海道伊達市出身　東京都在住
2006 年　武蔵野美術大学　造形学部　彫刻学科卒業

1981 年北海道伊達市生まれ、都市空間と人間の関係性に興味を持ち、人々が精神的に都市空間とつながる手助けとなるよう、公共空間での彫刻作品を制作・設置する取り組みをおこなっている。
主な作品に銀座 4 丁目　宝童稲荷神社参道“猿結参道”（2016 年、銀座）、MIYASHITA PARK SHIBUYA のボルダリングウォールのシンボルアート”YOUwe.”（2020 年、渋谷）、高さ 5.7m の大型彫刻　”Find Our Happiness”（2021 年、中国中山市）、″IYMMTRSTN.″ 2023（愛知県　犬山市　名鉄犬山遊園駅）がある。

″IYMMTRSTN″ 2023
（愛知県　犬山市　名鉄犬山遊園駅）
photo Alfie Goodrich.

◆資料に関するお問い合わせ先

六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond 事務局　広報担当：岡本、森下
TEL：078-891-0048（平日 9:00～18:00）広報用携帯電話：090-7104-3645　E-mail：press@rokkosan.com